報告者：田中綾一（駒澤大学経済学部）

論題：ウクライナ侵攻後のロシア外為市場とロシアの貿易決済

報告言語：日本語

要旨：ロシア中央銀行が公表しているロシア外国為替市場の統計に拠りながら、2022年2月のウクライナ侵攻以降に生じているロシアの貿易決済パターンの変化を明らかにし、それがドル体制に与える影響について考察するのが本報告の課題である。

ウクライナ侵攻以降、ロシアの外国為替市場ではドルとユーロの取引が減少し、かわって人民元の取引が拡大している。これをドル体制への脅威とみる見解が存在するが、本報告はその立場をとらない。

ロシアにおける人民元取引の拡大は、中露間の政治的合意に基づいて中国の銀行がロシアの貿易決済をサポートしている結果である。ロシアの輸出入がドル建から人民元建に変わり、その変化が外為市場に表れているが、中国のドル建貿易黒字が大きく減っているわけではなく、依然として中国はそのドルを運用しなければならない立場に置かれている。

ロシアがドル体制から離脱する可能性は高いものの、それがドル体制そのものを動揺させることにはならないというのが本報告の結論である。

（関連論文）

奥田宏司・田中綾一「ロシアのウクライナ侵攻後の貿易決済と中国の銀行」『立命館国際研究』第36巻第3号

奥田宏司・田中綾一「2022年4月の世界の外国為替市場と国際通貨」『立命館国際研究』第36巻第1号

田中綾一「オイルマネーとドル体制のゆくえ−中東諸国とロシアの動向、および原油取引の脱ドル化の現状と評価」『駒澤大学経済学論集』第55巻第2・3・4合併号